

# 燦(かがやき)学校評価特集号



読みは「さん。」子ども、家庭、地域、  
みんな一緒にかがやこう！

きのと小学校

学校だより

学校評価特集号

平成28年2月15日  
発行

## 今年度学校評価の最終報告

### 今年度最終の報告となります

今年度最終の学校評価（「知育」「徳育」「体育」の3領域）便りとなります。  
最後となるために、学校関係者評価委員の方からもご意見をいただき、評価していただきました。



知 育



徳 育



体 育

### 知育 かがやき1・2

かがやき1（目指す姿）

○学び合っている子どもの割合80%以上を目指す

自己評価

A

○前期の見取りでは55%（96人）だったものが、後期は80%（138人）へと向上した。それは、全体研修に加えて、発達段階に応じた子どもたちの「学び合いの姿」を学年部で検討した。そこからより具体的な手立てを講じていく中で、全職員が学び合いへの意識を高めることができたことが要因と思われる。

かがやき2（目指す姿）

○思考力、表現力を図るための記述式テストで、学期ごとの目標を達成している子どもの割合70%以上を目指す。

自己評価

**B**

○前期の見取りが55%（96人）、後期は64%（111人）で、上昇したものの目標とする70%までは達しなかった。自分の考えを意欲的に記述しようとする子は多くなってきているが、読み取りに弱さがあり、問題の条件に合わせて説明することがうまくできなかった。

学校関係者評価委員の評価とコメント

**B**

○一人一人の子に合わせて、とてもていねいな教え方がされていて、子どもたちの理解力アップに役立っている。  
 ○家庭学習の習慣が身についている子が多い。子どもたちの学習意欲を引き出して、小学校段階からしっかりと定着できるようにしてもらいたい。  
 ○来年度以降も、ていねいな指導ができるように、可能な限り少人数での指導ができるように配慮してもらいたい。

今後の主な具体策

- 「教え、考えさせる授業」をより充実させるために、教科や学年の実態に応じて、多様なパターンを増やせるような研修を行っていく。
- お互いの意見を明確に比較できるような板書やノート記述等を取り入れながら、話し合う方法を取り入れていく。
- 乙中学校との連携を図りながら、グループで学び合う力を高めていく。
- 記述テストに関しては、しっかりと計画を立てた上で、日常的に行うことができるようにしていく。
- 普段の授業から、自分の考えを詳しく説明するような活動を大いに取り入れていく。



**徳育 かがやき3・4**

かがやき3（目指す姿）

○相手を思いやる言葉づかい（感謝する・気づかう・ほめる・励ますなど）をする子どもの割合80%以上を目指す。

自己評価

**A**

○子どもたちの自己評価が97%、教師の見取りは87%、両者とも後期の方が高かった。しかも、その格差は減少しており、より確かな結果として捉えることができた。年間を通じた継続的な取組の成果が結果として表れている。

かがやき4（目指す姿）

○友だちと仲良く活動している子どもの割合80%以上を目指す。

自己評価

A

○子どもたちが97%、教師は87%と、両方の評価ともに高い数値で目標を達成することができた。子どもたちが楽しみにしているなかよし班活動を基にしたふれあいの場を大切にしてきた結果である。友だち関係を築くためには、とても有効であった。

学校関係者評価委員の評価とコメント

A

○言葉遣いに関しては個人差はあるものの、ほとんどの子がよい。今後は、正しく使わなければならない場面を自分で正しく判断して、正確に使えるような指導を期待したい。  
 ○人権教育、同和教育に関しては、歴史上実際に行われた差別を正確に教えてもらいたい。そのためには、教師だけでなく周囲の大人も一緒に学習していかなければならない。  
 ○日常の何気ない生活の中にも、無意識のうちに差別的な行為が起きることがある。その場を見逃さないで正しく指導してもらいたい。  
 ○豊かな心の育成には、保小との連携した指導でより確かなものとなる。中学校も含めて、今後も連携を深めていってほしい。

今後の主な具体策

- 学級内はもとより、友だち班を中心とした全校でのふれあいの場を意図的に設定する。その中で互いを認め合う等の活動を取り入れる中で、子どもたちにおもいやりのある言動を促していく。
- ていねいな言葉遣いと関連づけ、あいさつ運動を継続して行う。その際に、家庭や地域、中学校との連携を多様な形で行っていく。
- 人権教育、同和教育に関する道德の授業を公開を定期的に行い、子どもたちに思いやりの気持ちを育てていく。そのためにも、校内研修の充実を図っていく。



**体育 かがやき5・6**

かがやき5（目指す姿）

○気づきを生かして運動の仕方を工夫し、動きの質を高めている子どもの割合80%以上を目指す。

自己評価

A

○前期の79%から後期は87%にアップした。（教師の見取り）子どもたちに運動のめあてを持たせてから授業を始めたことや、体育の研修会を行ったこと等が要因としてあげられる。動きの質をより高めるような授業ができるようになっている。

## かがやき6（目指す姿）

○就寝時刻（下学年午後9時、上学年午後10時）を守っている子どもの割合80%以上を目指す。

自己評価

C

○前期の71%に対して後期は64%と、残念な結果となってしまった。（がんばりカードによる評価）中には自分の立てためあてに向かって頑張っている子どもがいるのだが、個人差があり、注意意識を持続させることが難しかった。

## 学校関係者評価委員の評価とコメント

B

○マラソン大会等で見られた子どもたちの姿は感動的だった。体力を高めていく中で、頑張ろうとする意欲も育っていく。意欲面からも、子どもたちの体力を高めてやれるように指導してもらいたい。  
○子どもたちによい意味での競争心が育ってきている。頑張る姿が他の子への刺激にもなるので、うまく引き出してもらいたい。  
○日常の身近な運動を大切にすることから、運動能力の向上を図っていけるとよい。子どもたちの実態に応じて、やれるところから指導してほしい。  
○睡眠時間の確保に関しては、学校だけでなく、家庭との連携が不可欠となる。学校から家庭へ積極的に働きかけてもらいたい。

## 今後の主な具体策

- 子どもたちの動きの質を高める授業を今後も継続して行う。そのためにも動きのポイントを十分把握した上で授業を行う。
- 授業の中で子どもたちの意見交換を意図的に取り入れたり、子どもたちの動きに対する見取りを随時取り入れたりするような授業を行う。
- 重点単元を選択し、年間指導計画の見直しを行っていく。
- 就寝時刻を守るために、目標とする時刻を設定させ、取り組ませる。メディアとの正しい付き合い方も含めた指導を通して、睡眠時間の確保を意識させていく。



今回の結果に関しては、2月の授業参観同日に実施予定の学校評価動説明会でもお話させていただきます。多くの方からのご参加をお願いいたします。これからも家庭や地域等と連携を深めながら、学校運営を進めてまいります。

1年間のご協力ありがとうございました。次年度以降も、学校運営に関してのご理解とご協力をお願いいたします。

きのと小学校 職員一同